

碧いびわ湖の事業にご参加とご支援をいただいているすべてのみなさまへ

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

2014年度活動レポート

日頃より、碧いびわ湖の事業への参加とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

2009年に滋賀県環境生活協同組合から事業を継承し、NPO碧いびわ湖としてスタートして5年。「子どもと湖が笑ってる未来へ」の合言葉のもと、多くの方に会員・利用者の環に加わっていただき、住まいづくりや子育て広場など、新たな事業や会員活動を共に作りあげることができました。

2014年度は、次なる5年に向けての準備期間と位置づけ、会員間の交流や、会員の自主的な取り組みの活性化に力を注ぎました。

その主な成果を、この小冊子にまとめました。お目通しいただき、引き続き、碧いびわ湖の事業への参加とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2015年5月

特定非営利活動法人 碧いびわ湖

代表理事 村上 悟

子どもと湖が笑ってる未来へ

碧いびわ湖

● 買いものづくり ●

未来につながるお買いもの（共同購入事業）と
せっけん運動+紙パックリサイクル（リサイクル事業）

身近な居場所で買いものを…「小さな購入拠点」のネットワークづくり。

「碧いびわ湖の取扱品を、近所で買えるようになったらいいな」という利用者さんからの声、そして「碧いびわ湖の取り扱い品を、うちに置かせてもらえないでしょうか」という、地域でコミュニティスペースを開かれている方からの声。その両方の声を受け、「小さな購入拠点」のネットワークづくりを始めました。

これから拠点を担っていただける方を増やしていきたいと思います。



↑ショップマドレさん（安土）



↑カフェ古良慕さん（高島）



↑渡部建具店さん（米原）

暮らしの足元から…「せっけん運動」、「紙パックのリサイクル運動」の継続

1978年にはじまった琵琶湖のせっけん運動を受け継ぎ、いまなお、県内約100か所にて廃食油の回収をつづけています。36年間にわたって回収を支えてくださるボランティアスタッフや地域の回収団体（住民）さんがいらっしゃいます。また、1991年にスタートした紙パックのリサイクル運動も、県内およそ100か所にて回収を行っており、平和堂やコープしが等の協力もあり、回収量は、年間370トン余りに及びます。



↑エコマやすでの油回収の様子



↑びわこ学園で集めてくださった紙パック

農家と生活者の新たな関係づくり…大豆の選別作業を行いました。

共同購入している大豆は、農家にとって選別作業が大きな負担になっています。そこで、会員・利用者に呼びかけ、大豆の選別作業を分担して行ってもらうことができました（合計 240kg）。「楽しかった」「農家さんへの感謝の気持ちが深まった」などの反響をいただきました。



↑親子で大豆の選別作業



↑味噌づくり体験会も開催
(もんぺおばさんの田舎工房)

会員の声や活動の中から、共同購入の新しい取扱品が生まれました。



- 2014 年度の新アイテム
- ◆小林ファームのスイカ
(近江八幡・大中)
 - ◆やんばる野草酵素
(沖縄・高江)
 - ◆びわこからへのこへ
「つながる手ぬぐい」
(あまいろ探偵団)

【数字で見る2014年度実績】

- 利用者数 共同購入利用者数：個人 531 人（内、新規 185 人） 法人 131 事業所
小さな購入拠点数：7 箇所
- 供給量 大戸洞舎のお米：2,390kg 大戸洞舎の無農薬大豆：209kg
愛東・菜種油「菜ばかり」：254L 愛東・漆崎さんのぶどう：226kg
和歌山・農薬ゼミ&仲田さんの省農薬みかん：3,205kg
水俣・グリーンネット結の無農薬春みかん：1,164kg
kikito ペーパーコピー用紙：64 ケース(A4)
- リサイクル 廃食油回収量：14,470kg
→リサイクル粉せっけん供給量 5,236kg
牛乳パック回収量：377,600kg
→リサイクルティッシュ供給数 4,796 袋
→リサイクルロール供給数 9,843 袋

● 住まいづくり ●

住まいが変われば、暮らしが変わる × 身近な自然とつながる住まい

滋賀県・低炭素な「まちと建物コンテスト」で優秀賞を受賞。

5団体に表彰状

県「低炭素な「まちと建物」

二酸化炭素排出を抑える技術などを導入した建築物や事業を対象にした「低炭素な「まちと建物」コンテスト」の表彰式が二日、県公館であり、五団体に表彰状が贈られた。表彰されたのは、雨水や太陽熱を活用する



表彰状を手に記念撮影に臨む受賞者ら。県公館で

表彰は低炭素社会実現に向けた取り組みを活性化させようと、県が主催。十二団体から応募があった。

(山内晴信)

◇ほかに表彰された建物・事業
「安曇川流域森と家づくりの会」の家づくり(大津市)▽パナホームスマートシティ草津(草津市)▽立命館大びわこ・くさつキャンパス(トリシエ) (同)

↑表彰式の記事 (2015年5月3日中日新聞朝刊)

雨水利用システムや太陽熱利用機器の設置をすすめました。



↑3tの雨水タンクで洗濯、トイレ、散水に(草津市A邸)



↑雨水を宅内に引き込んで洗濯に(湖南市N邸)



↑太陽「光」と太陽「熱」を一緒に(大津市I邸)



↑28年使った太陽熱温水器を新調(彦根市H邸)

業務用太陽熱利用を初めて設置。

近江八幡市内の美容室「ヘアワークスワイズ」さんで、初めて業務用の太陽熱利用を導入いただきました。事業所向けの県の再エネ補助金も活用し、太陽熱利用における第一号の事例となりました。引き続き、福祉施設や医療施設、飲食店や宿泊施設等における導入を推進していきたいと思えます。



↑ヘアワークスワイズさんの太陽熱利用（屋根のパネル）

雨水利用や太陽熱利用について県内外で広く発信しました。

実績に基づき、雨水利用や太陽熱利用について県内外で発表をさせていただきました。

- 2014年 4月 シャボン玉フォーラムの分科会「洗濯するなら雨水だ！」でお話と実演
- 7月 「京都・生活者ネットワーク」雨水利用の学習会でお話と実演
- 9月 日本水環境学会シンポジウムで住まいづくりの報告
- 2015年 1月 関西の雨水関連団体主催のシンポ「雨活新時代」で事例報告
- 2月 京田辺市の有志主催の雨水学習会でお話と実演
- 滋賀県流域治水シンポで雨水利用の事例報告とパネルディスカッションをコーディネート
- 滋賀県再生エネルギー市町研究会で太陽熱利用についてのお話 等



↑京田辺市での雨水学習会



↑日本水環境学会シンポジウム

【数字で見る2014年度実績】

- 雨水タンク・雨水利用システム設置 12件
- 太陽熱温水器・太陽熱システム設置 8件
- リフォーム等 14件

● コミュニティづくり ●

子育て世代の仲間づくり（ネットワーキング）と
県内各地にある地域（コミュニティ）での取り組み

野外子育て広場から、子育て世代の仲間づくりへ（ネットワーキング）

2014年度は、守山と栗東にて野外子育て広場を開催しました。野外活動での安全確保のための研修会を6月と9月に実施したのをきっかけに、県内各地で、同様の活動がされている子育てサークル等のみなさんとのネットワークに広がりました。



↑安心と安全を手づくりする公開研修会



↑県内23ある遊び場を紹介したマップを発行

守山…まちなかの水辺にホテルが自生し、人びとがすこやかに暮らすまちへ

びわこ豊穡の郷（NPO）や、みらいもりやま21（まちづくり会社）、すこやかもりやま実現隊（NPO）等との協働による「ホテルが自生する川づくり」と「健康都市づくり」を、守山市中心市街地活性化計画(第二期)に盛り込むことができました。



↑水辺（目田川）での野外子育て広場



↑守山環境フェアにて太陽熱ヤキイモでPR

栗東…地域との協働で「ひと・産物・文化」が行き交う拠点づくりへ

たまたばやしがある下戸山地区にて、地域の農家や住民との協働で下戸山マルシェ「はなもも市」を開催しました。



↑たまたばやしで夏祭りを開催



↑子どもを抱いてカマドの土づくり



↑「はなもも市」ポスター

安土…二つのふるさと絵屏風が完成。

お年寄りからの聞き書きを元に、かつての地域の暮らしを一枚の絵図に表現した「ふるさと絵屏風」が、老蘇地区と下豊浦区の2地域で完成しました。地域のまちづくり協議会や商工会から碧いびわ湖が業務受託し、地域の方々の参加を得て制作したものです。



↑完成した絵屏風を前に交流する様子

西の湖のほとり…子と親が共に学び育ちあう場づくりへ

米粉の共同購入をしている百菜劇場の農場で自主保育をされている「ひとつぶてんとう園」とともに、子と親が共に学び育ちあう場づくりに向けて対話を重ねました。

子連れ家族や農家が集まって作戦会議→



【数字で見る2014年度実績】

●野外子育て広場 実施回数 20回 参加者数 大人 308名 子ども 369名

● つながり と ひろがり ●

会員相互の交流と、地域コミュニティとのつながり

碧いびわ湖の設立から5年という節目にあたり、会員相互の交流を通じて今後の事業展望を図ることを目的とし、3回の会員交流会を開催しました。

○9/23「農にまつわる新しいなりわいづくり」草津・まんぼのとなり

○10/18「好きなくらし、ひとつまみ。」東近江市愛東・あいとう菜の花館ほか

○2/22「みんなのどっぼ」長浜市小谷上山田・どっぼ村

いずれの回も、おいしい食事と熱心な議論の中から、さまざまな学びや気づきが得られました。実際に会って話すこと、食べること、同じ空間に居合わせることの大切さをあらためて実感しました。また、新会員も増え、各地域との関係も深まりました。



↑おいしいごはん（草津）



↑畑の見学（愛東）



↑お家の見学（愛東）



↑参加者同士の交流（どっぼ村）

Facebook ページを開設

2014年7月に碧いびわ湖のFacebook ページを開設しました。



手づくり市民メディア「あまいろだより」を発行しました（5回）。



2014年度は、新たに編集委員会を組織し（通称「あまいろ探偵団」）、多彩な6名の編集メンバーによって、番外編を含め5回発行しました。

- 第19号 ここからつながる
（オーガニックマーケットしが@三井寺）
- 第20号 くらしとせいじ
（県知事選挙を振り返って）
- 番外編 あまいろ探偵団 高江に行く！
（座り込みとやんばるの満点の星）
- 第21号 水害について「地先の安全度」マップと、歩く。
- 第22号 生まれることと、死んでいくこと
（朝比奈助産院／最期を生きる）

マザーレイクフォーラムに参画し、地域での多様な主体の連携づくりを推進。

琵琶湖の総合的な保全・再生には、多様な県民・事業者の幅広い理解と参画が必要です。その参加の場として設けられた「マザーレイクフォーラム」では、委員会運営の一端を担ったほか、地域での多様な主体の連携を育むワーキンググループを立ち上げました。8月には守山にて、NPO びわこ豊穰の郷とともに、フィールドワークを行い、まちづくり会社のマネージャーをゲストに、今後のまちづくりにおける水辺環境保全のあり方について意見交換を行いました。



↑守山の川を歩くフィールドワーク

【数字で見る2014年度実績】

- 会員交流会参加者 大人 83人 子ども 30人
- 運営会員 142人（前年比+48人）
- 賛助会員 15人（前年比+15人）